研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-139		20-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol and marijuana protective behavioral strategies mediate the relationship between substance use identity and use-related outcomes: A multi-sample examination
飲酒とマリファナ使用の保護行動戦略は物質使用のアイデンティティとそれらの使用に関連するアウトカムとの関係を仲介する: マルチサンプル研究

執筆者

Montes KS, Dela Cruz M, Weinstein AP, Pearson MR, Lindgren KP, Neighbors C; Marijuana Outcomes Study Team.

掲載誌

Addict Behav. 2021 Jan;112:106613. doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106613.

キーワード	PMID
飲酒、アイデンティティ、マリファナ、保護行動戦略	32891978

要　旨

目的：飲酒やマリファナ使用のアイデンティティと、それらの使用状況との関連に保護行動戦略（PBS［例：酒合戦回避や、公共の場でのマリファナ使用回避など］）が媒介するかどうか検討した。

方法：米国の 3 つのデータセット（①：2 大学の学生で多量飲酒者 605 人を対象とした介入研究、②：大学生を対象としたマリファナ使用に関する多施設横断研究［9 大学, N=2,077］、③：一般成人を対象とした物質使用のオンライン調査［分析対象：飲酒者 369 人とマリファナ使用者 146 人］）を用いた。飲酒・マリファナの使用状況として、使用頻度、量、および使用による問題について評価した。また、飲酒やマリファナ使用のアイデンティティは、喫煙自己概念尺度修正版 5 項目（例：飲酒 / マリファナは私の自己イメージの一部です）により、飲酒とマリファナ使用の PBS は、それぞれ 15 と 17 項目のスケールで評価した。媒介分析は、年齢と性別を共変量とし、最小二乗法と負の二乗回帰フレームワーク内で実行した。間接効果は、モンテカルロ信頼区間により評価した。

結果：飲み方に関する PBS（MOD PBS）は、飲酒のアイデンティティと飲酒量および飲酒関連問題との関連の有意な媒介変数であった。飲酒者としての自己認識が高いことは、低いレベルの MOD PBS、飲酒量の多さと関連した。マリファナ PBS は、マリファナ使用のアイデンティティと使用状況との関連の媒介変数であった。マリファナ使用の自己認識が高いことは、低いレベルの PBS と関連し、さらにマリファナ使用状況と関連した。

結論：本研究結果は、飲酒やマリファナ使用の関連問題の軽減に役立つ可能性がある。